

平成 26 年 3 月 26 日

高知大学 国際連携推進センター基本方針

設置の経緯

国際連携推進センターは本学の各部局等と連絡の上、教育・研究交流、国際協力プロジェクト及び留学生の受入れ、本学学生の海外留学・派遣などを司る。本センターは、国際プロジェクト部門と国際連携教育部門から成り、中国語センターを附置する。

新センター設置にあたり、高知大学におけるこれまでの取組み【国際交流ポリシー（平成 18 年 4 月 12 日役員会決定）ならびに国際交流のあり方懇（平成 20 年 11 月 20 日）の報告】を踏まえて、国際連携推進センターの新しい基本方針を策定し、業務の方向性を示す。

国際連携推進センターの基本方針

1. グローカルな国際連携を目指す

高知県と同様の開発課題を抱えるアジア・大洋州等の開発途上国とのつながりを重視し、教育、研究、国際貢献の面で重点化を図っていく。地域と共に学び研究する「知の拠点」として、地域から世界に発信する大学を目指す。

2. 双方向の国際交流を推進する

留学生の受入のみならず、本学学生の海外留学の促進に重点を置く。ワンストップサービスを強化し、海外からの優れた留学生受入れを増やす。日本人学生と留学生が集い、互いに学びあうキャンパスを創造する。

3. 地球規模の課題に対する国際協力をチャレンジする

本学の研究シーズと高知県の地域資源の特徴を生かして、国際協力を推進する。国際協力の現場を教育・研究の場としても活用し、実践的で国際的な教育・研究を発展させる。

基本方針を具体化する活動

国際プロジェクト部門

1. 国際連携の分野・地域を重点化する

- (1) 教育、研究、国際貢献すべての側面において都市部の有力大学、大規模大学との差別化をすすめ、高知大学にしかできない、あるいは高知大学が比較的優位にある教育研究分野を明確化し、海外へ発信していく。例えば、分野としては高知県の課題解決と直結する①実践的な農業及び食品加工、②海洋資源の利活用、③防災・気象変動・環境、④保健・医療、⑤学校教育、⑥地域の社会・経済開発などがあり得る。
- (2) 将来の教育・研究の国際的なネットワークを強化するため、留学生受け入れにあたっては、協定校はもとより、本学の重点地域である黒潮流域圏を含む東南アジア、特に若年人口が増大を続け、高等教育への需要の高い国々からも、将来性のある優秀な学位取得を目的とする留学生を積極的に受入れる。

2. 国際交流拠点を中心に国際的な研究を推進する

- (1) 高知大学ならではの分野・地域における研究交流を促進するため、国際化戦略経費を重点配分し、外部資金を獲得できるよう支援する。配分にあたってはネットワーク型、文理融合型のプロジェクトを優先する。
- (2) 文理融合の研究交流や国際協力の促進を図るため、国際化戦略経費の一部をあてて、国・県の政策や計画とすり合わせて特定の研究テーマや対象地域を決め、関心ある研究者を公募して調査を行い、国際的な共同研究を発掘する。

3. 国際協力に積極的にチャレンジする

- (1) 教員の研究成果を国際協力に生かし、ODA 資金による国際協力活動を活発化させる。特に JICA による途上国行政官向け国際研修は、直接途上国政府とのネットワークを強化し、海外事情に容易にアクセスできるため、積極的に開発・実施する。実施にあたっては、学生に国際協力を体験させるなど、教育面での活用も考慮する。
- (2) 国際協力活動は、国際貢献の面のみではなく、教育・研究に様々なメリットがあり、本学の目標の遂行に不可欠である。そのため、教職員の国際協力活動が正当に評価されるような仕組みを作る。
- (3) 国際協力事業を形成するにあたっては、国内においては高知県の自治体、企業、NGO との連携、また、海外においては協定校との協働も視野に入れて、ステークホルダーを巻き込んだ案件に配慮する。このことによって、地域連携や協定校との連携がさらに促進される効果が期待できる。

国際連携教育部門

1. 高知大学からの留学生派遣を増やす

- (1) アジアの協定校からの留学生受入数に対し派遣数が少ないことから、アジアの英語共通語圏（フィリピン、マレーシアなど）の協定校への留学生派遣を増やす。また中国語圏の協定校への派遣を増やす。
- (2) 協定校への留学生派遣を増やすため、協定校情報の整理とパンフレット、イントラネットでの発信を強化、また学生向けセミナーを多重的に開催するなど、学生の関心を高める。
- (3) 留学希望者の英語力アップのため、学部等と共同で TOEFL 等対策講座の開発や支援を行うとともに、派遣数増加のために有効活用する。
- (4) 中国語センターを活用して、中国留学への学生や保護者の関心を高め、学生の中国語力をアップさせる。

2. 日本人学生等と留学生が共に集い、共に学ぶキャンパスを創造する

- (1) 留学生向け行事は、日本人学生も参加可能とし、学生たち自身の企画を取り入れる。
（例：日本語スピーチコンテスト、留学生による協定校紹介セミナー、学外への合同研修旅行など）
- (2) 高知大学ポータルサイトの国際関連部分は英語対応とし、学内のサインや看板も日・英 2 か国語併記とし、留学生に優しいキャンパスを実現する。
- (3) 日本人学生等と留学生が、常時集い情報交換できる交流スペースを確保する。交流スペースには、コンピューターや外国語雑誌、留学情報などがいつでも見られるよう整備し、留学生向けビジョンボックスを置く。

3. 留学生獲得から受入れまで、ワンストップサービスを強化する

- (1) 留学生の獲得に当たっては、協定校からの短期留学のみならず、質の確保を前提に JICA 留学生（修士）や私費留学生、国費留学生など長期留学生を積極的に獲得する。そのために国際連携推進センターは、留学生向けの広報ツール（外国語によるウェブサイト、パンフレット、DVD など）を開発し、国内のみならず海外での留学フェアに参加し海外大学での説明会などを開催する。また、学術交流等で海外の大学等へ出張する際にも、留学生勧奨のための活動を行うことを促進する。（例：国際化戦略経費の申請項目にも留学生獲得努力を追加するなど）
- (2) 教員の留学生受入/派遣の事務的負担を減らし、留学生の利便性向上を図るため、留学生受入/派遣事務は、国際連携推進センターがワンストップサービスとしての役割を

担う。また、教員向け及び留学生向けの受入手続マニュアル、留学希望者向けの留学マニュアル、留学生受入/派遣危機管理マニュアル等を整備しイントラネット、インターネットで公開する。

- (3) 留学生の危機予防のため、ブリーフィング、コンサルテーションを強化する。
- (4) 留学生向け宿舎確保は、混住型学生寮の整備を推進するが、当面は宿舎の借上げや宿舎提供サービスの外部委託などを検討する。